

上田仮説サークルニュース		12月例会	2016. 12号
編集責任 遠藤 裕		発行2017. 1. 28	
〒383-0041 中野市岩船426-3 サカガーデン中野 B-G		TEL 0269-23-2847	携帯 090-1406-9115
メール endo-h@cronos.ocn.ne.jp		勤務先 長野工業高校	TEL 026-227-8555

12月17(土) 上田市中央公民館 3F第1・第2会議室
午後3:00～6:00



参加者数 8名 資料総ページ 60 ペ

<参加者> 柳沢克央さん, 渡辺規夫さん, 増田伸夫さん, 坂口富雄さん,
池田みち子さん, 大塚浩文さん, 田中浩寿さん(忘年会から), 遠藤裕

はじめに 12月例会の参加者は7名。

レポートは、柳沢さんから1本、増田さんから1本、渡辺さんから3本、田中さんから1本の合計6本の発表がありました。

柳沢さんは、読書メモで5冊の本を紹介してくれました。それぞれ印象に残ったことや感想が紹介されています。

増田さんの<今月の書評15>は12ページにおよぶもの。『旧約聖書』についての基礎知識がわかりやすく解説されていて、多くの人に勧めたい本だそうです。

渡辺さんは、11月から12月にかけての近況報告。長野県教育研究集会で発表されたレポートとプリントを紹介。コンデンサー、エナジースティックを用いた実験、変圧器の実験などが紹介されています。

忘年会から出席された田中さんは、池上彰氏の講演記録(要約メモ)を持ってきてくれました。忘年会会場で田中さんがさっと説明をしてくれましたが、とても面白い内容の講演だったようです。できればテープ起こしも読んでみたい内容です。

体験講座は、渡辺さんの講師で、授業プラン〈ノーベル財団と〈〇〇〇基金〉〉をたのしみました。(宮地祐司さん作) 少しお金に対して違った見方ができるようになった気がします。渡辺さんには準備をありがとうございました。

終了後、「なぶら」(上田駅温泉口 東急 REI ホテル1F)で忘年会。参加者6名。飲んだり食べたりしながら話題はいろいろな方面に発展しました。(記録に残しておけば面白かったかもしれません。)

1. 発表資料

① サークルニュース 11月例会 遠藤 裕 (8ペ)

1. 発表資料

- ① サークルニュース 10月例会 遠藤 裕 (6ペ)
- ② 読書メモ2016年 10・11月 柳沢克央さん (8ペ)
 - －大澤孝征著『元検事が明かす「口の割らせ方」』ほか－
- ③ 紹介 「なぜ安倍政権は勝ち続けるのか？」 柳沢克央さん (4ペ)
- ④ <今月の書評13> 増田伸夫さん(32ペ)
 - 〔書評〕<心性の変化>から－神教への変貌を読み解く
- ⑤ <渡辺：今月のお話6> 増田伸夫さん (8ペ)
 - コモン(common)のための運動
 - －牧衷運動論の有効性(1)－ 渡辺規夫
- ⑥ アンケート集計結果 高見沢一男さん (2ペ)
 - 高校3年生の化学基礎の授業での「たのしかった実験」についてのアンケート結果。

② 読書メモ2016年 11・12月 柳沢克央さん (4ペ)

－茨木保著『ナイチンゲール伝ほか－

柳沢さんが11月、12月に読んだ本の紹介。

◇はじめに

いつもの「読書メモ」と同様、サークルで発表することを目的とすると、読書がはかどるので、今回もこのメモを作成しました。自身のため、記録を残すことが第一目的です。みなさま、よろしく(適当に)おつきあい下さい。今までのものと同様に説明あり、引用あり、要約あり、感想ありで諸々が混交しておりますのでご注意を。

(私物)と書き添えてあるもの以外はすべて篠ノ井高校図書室蔵書。

◇読書記録または読書メモ (順不同)

- ◎茨木保著『ナイチンゲール伝・図説看護覚え書とともに』(医学書院・2014年)(まんが)
- ◎ちくま評伝シリーズ《ポルトレ》『黒澤明－日本映画の巨人－』(筑摩書房・2014年)
- ◎池上彰・佐藤優共著『新・リーダー論』(文春新書1096・2016年)(私物)
- ◎向田邦子他『お茶をどうぞ：対談・向田邦子と16人』(河出書房新社・2016年)(私物)
- ◎レイチェル・カーソン著・上遠恵子訳『センス・オブ・ワンダー』(佑学社・1991年)

◇まとめ

あっと言う間の一年間だった。この一年で自分で適当に締め切りを設定してベルトコンベア一式にメモを仕上げていくコツのようなものを体得できた。私の場合、一つのメモを完成させるときには、すでに翌月分のメモを書き始めているという方法がいいようだ。自分なりの目標を達成したので、今後は不定期化しようと思っている。今までのおつきあい、ありがとうございました。2016年12月16日(金)脱稿。(終)

(柳沢さんの読書メモ、毎回発表をありがとうございます。これまでにかんりの本を紹介していただきました。この読書メモを是非ガリ本としてまとめていただけたらと思います。これからの発表も

楽しみに似ております。 エンドゥ)

③ <今月の本紹介15>

増田伸夫さん(12ペ)

【書評】旧約聖書の「律法主義」がユダヤ教を存続させた

問題の予想を立てながら読む書評。問題が9つと質問が1つあります。

☆加藤^{かとう}隆^{たかし}著 『別冊NHK 100分de名著 集中講義
旧約聖書「一神教」の根源を見る』(NHK 出版)
(2016年2月25日第1刷発行) 定価: 本体900円(税別)
著者は千葉大学文学部教授(専門は聖書学/神学/比較文明論) 著書
に『新約聖書はなぜギリシャ語で書かれたか』(大修館書店 1999), 『一神
教の誕生』(講談社現代新書 2002), 『旧約聖書の誕生』(ちくま学芸文庫
2011) など多数

前回読んだ山我^{やまが}哲雄^{てつお}著『一神教の起源』では、主に聖書学をもとに「唯一神教の起源」
が興味深く語られていた。しかし聖書学とはいかなる学問なのだろうか。

本書は、「NHK 100分de名著 旧約聖書」の番組テキストをもとに加筆・再構成さ
れた別冊である。その中で著者は、『旧約聖書』を<古代ユダヤ民族の歴史物語>とと
らえ、山我さんとは別の視点で『旧約聖書』を読み解いている。そこで、今回も設問形
式で本紹介を試みたい。

- | | |
|--|-------------------------|
| 1. 『旧約聖書』の編纂 | 6. 南北の王国とイスラエル12部族 |
| 2. 『旧約聖書』の構成文書 | 7. 「メシア」とは |
| 3. 二つの「創造物語」の矛盾 | 8. 「カインとアベル」のエピソードの読み方 |
| 4. 二度にわたる神の「名乗り」(神のあり方) | 9. 神学的思考の転回 |
| 5. 「 ^{すざこしのまつり} 過越祭」とは?(復活祭とは?) | 10. 律法主義(律法の完璧な遵守)とユダヤ教 |

さて、本書の内容をひとことで言えば「<神の言葉>として絶対的権威を持つ『旧約
聖書』は十分に複雑で、全体についての完璧な理解は事実上不可能である。よって「律
法主義」(=人が何をしても救われない・律法を遵守して神の介入をひたすら待つしか
ないという考え)が生まれ、それが(幾度となく起きた破局的な状況の中でも)ユダヤ
教を存続させてきた」ということになるだろうか。

テレビの番組テキストをもとにしているからか/テレビ番組を見ていることを前提と
しているからか、本書では中味がくできるだけ平易に/端的に>という意図のもとに語
られていると感じた。それは読み手としてはありがたいのだが、山我さんの『一神教の

起源』と比べると、やや議論が乱暴で、厳密さに欠けると思った（特に「拝一神教」と「唯一神教」の区別や、民族史の史実性の検討など）。

それでも、『旧約聖書』に対する深い読み方や『旧約聖書』についての基礎知識が分かりやすく解説されており、宗教について基礎知識の乏しい私にはとても役立つ本であった。気軽に読めるので、多くの人に勧めたい。（増田）

（『旧約聖書』は、名前はほとんどの人がしていると思いますが、じっくり読んだことのある人はそんなにいないのではないのでしょうか。この本をきっかけに理解を深められればと思います。 エドワリ）

④ 近況報告 渡辺規夫さん（4ペ）

渡辺さんの11月から12月にかけての近況報告。

- ・君の名は（11／4） ・県教研（11／6） ・教育史研究会（11／11）
- ・びりりん講師への道（11／19～20） ・「うさぎ追いし」鑑賞（11／24）
- ・夏子の演奏会 in 下北沢（11／26） ・子ども向け講座（12／4）
- ・相続講座（12／7） ・《生物と種》の授業（12／8）
- ・大忙しの1日（12／9） ・まちかど科学クラブ（12／10）
- ・ゲスト出演（12／11）

松本第一高校の授業も12月20日で終了です。

2月か3月に「科学史と仮説実教授業」というリレー講演会を企画するので、講演してほしいと頼まれました。依頼主は愛知県瀬戸市の高木仁志さんです。

大阪でまちかど科学クラブをやっている人から連絡があり、冬の大会でまちかど科学クラブのナイターをやるといことです。

大道仮説実験、今後力を入れていきたいと思っています。

（退職されてもお積極的に活動されている渡辺さん。映画はいつも奥様と一緒に。奥様や娘さんへの心配りも忘れていないようです。 エドワリ）

⑤ 物理実験の紹介 渡辺規夫さん（20ペ）

長野県教育研究集会での発表レポート。

まえがき

8月から松本第一高校3年生の物理を教えることになった。時間がない中で、教科書を終わらせなければならない。電磁気学分野は説明を端折ると話がわからなくなる。速く進め、かつ生徒が理解できるようにするにはどうしたらいいかを考える中で、いくつかの実験を思いついてやってみた。生徒の反応はまあまあという程度であるが、理科の先生の集まりで紹介したら反応がよかった。レポートとしてまとめるほどの実践ではな

いため、昼休みの実験紹介のコーナーでの発表としたい。

1. コンデンサーの接続をどう教えるか [別紙プリント]
2. コンデンサーでLED電球を点灯させる
3. LEDを用いた物質の分類
4. エナジースティックを用いた半導体の判定 半導体と導体の違い
授業プラン <エナジースティックで判定する>
5. 変圧器の実験

あとがき

43年間も教員をやっていると、どういう授業をすれば生徒はどう反応するかは、よくわかっていると自分でも思ってしまうがちである。しかし、授業をしてみると生徒の意外な反応に毎回驚かされる。43年間の経験をもってしても、生徒の反応をよく予想できないのである。授業において、生徒に学ぶことが大切と初任の頃から先輩の教員から教えてもらったが、そのときはあまり実感がなかった。しかし、教員生活を続ける中で、生徒に学ぶこと、生徒の気持ちがわかることが一番大切であるということが次第次第に実感されるようになった。

生徒はどこがわからないか。

コンデンサーの直列接続の合成容量を求める式 $\frac{1}{C} = \frac{1}{C_1} + \frac{1}{C_2}$ を覚えている生徒も、「1Fのコンデンサーを2個直列につなぐと合成容量は2Fだ」と考える場合が多い。式が直観と結びついていないのである。生徒が、「直列につなぐと電気容量が小さくなる」ということが直観的にわかるという学力をつけることが大切だと思う。そう考えれば、「豆電球が光っている時間の長さでコンデンサーの容量を測る」という実験のしかたは厳密ではないかも知れないが、直観的な判断をするためには大変役に立つ。式を学んでも式をぼんやり眺めていただけの生徒も、この実験結果について、納得し、改めて式の意味を理解するのである。(と思う)

豆電球と電池でいろいろなものが電気を通すかどうかを調べるという実験も同じことが言える。この実験を豆電球がつくかどうかで判定せず、テスターで電流を測定するということにしたらどうだろうか。より厳密なデータからより深い理解が得られるだろうか。テスターによる実験をしてみても、生徒はほとんど反応しない。テスターの針が示す数値に意味を感じないのである。このような実験をしても生徒は何かを学んだという感じを持たない。そのため、実際のところ学力もあまりつかないのである。

「豆電球が光るかどうか」ということが問題とされると、生徒の頭は急に動き出し、予想を立てて実験結果に注目する。このように授業を展開すると生徒は物質の分類を的確に、直観的に把握し、その結果学力も向上したのである。

謝辞

電球がつくか消えるかという発問の重要性を教えてくれたのは愛知物理サークルの三

井伸雄さん（故人）である。三井さんは電球がついている回路の途中にコイルをいれることにより、電球が消えるという実験を見せてくれた。コイルのリダクタンスにより、（コイルが交流電流に対して「抵抗」として作用して）電球が消えるのである。この実験が電球でなく、テスターで電流を測定し、電流が小さくなるということを示す実験であったら、ほとんどインパクトはなかったように思う。

（県教研では、クラブ引率の関係で渡辺さんの発表を伺うことができず残念でした。レポートからは、渡辺さんが生徒の気持ちを大切に教材を研究しているということが伝わってきます。 エドワ）

⑥ プリント コンデンサーの接続 渡辺規夫さん（8ペ）

コンデンサーの合成容量を直感的に把握できるようにする実験プリント。

（⑤の「1. コンデンサーの接続をどう教えるか」の「別紙プリント」）

コンデンサーを直列と並列に接続したとき、たまる電気量の違いを豆電球の光る時間で比較する実験。実験問題が6つと、お話「コンデンサーの充電と放電」があります。

（以前にサークルで発表していただいたプリントです。コンデンサーにたまる電気量を、豆電球の光る時間で比較する方法は渡辺さん独自の発想のようです。最後の方はまだ未完になっているようですので、是非続きを完成していただけたらと思います。 エドワ）

⑦ H28 信濃教育会総集会 池上 彰氏 講演会記録（7月2日）より 要約メモ

田中浩寿さん（4ペ）

池上彰氏の講演記録の紹介。

池上氏によると、この講演を3年前から「やってくれないか」と頼まれていたが、あやうやく実現したとのこと。信濃教育会での講演ということで、教育に関する話題が多いです。次に印象に残った部分を紹介します。

・さらに社会に出たら、これぞ正解というものはそうはなく、答えが見つからないような、答えてもそれが本当に正しいかどうか分からないような難問はいくらでもある。どんな問題にも正しい答えがあると思いついて大学に入ってくる。そのまま社会に出てしまうと大変なことになる。中には答えられないような、あるいは答えても誰もがそれが正しいか判断できないようなものはいくらでもあることを、大学できちんと教えなければいけない。

・日本の場合、与えられた条件の中でがんばろうとしがち（スキージャンプのルール変更の例）。自分でスタンダードを作り出すのではなく、与えられたスタンダードの下で一生懸命がんばろうということをやったのではないかと。ただ与えられたものを一生

懸命覚えて、それを試験で吐き出すということばかりやっついてはいけないのではないか。

・日本はすぐれた技術力をもっているが、グローバルスタンダードを作り出すのが不得手。たとえばエアバッグは日本の技術者が開発したが、誰からも見向きもされなかった。スウェーデンとアメリカの会社が同じやり方を発見して、あっという間に世界に広がった。3Dプリンターもそう。ロボット掃除機もそう。スマホもドローンもそう。せっかくの技術を日本は持っているにも関わらず、それが世界標準にならないという、非常に重大な問題がある。

・フィリピンのスラム街で出前授業をやっている若者のボランティアグループを取材したことがあるが、子どもたちは学校へ行かないので、スラム街に出向いて子どもたちを集めて教えた。初めて読み書きから教わり、ものを知る喜びを初めて知る。どんどん集まってくる。ある不良少年が誘われて教える立場になって、そこで教育の大切さを知り、自分で勉強を始めてとうとう学校の先生になった。その人に「あなたにとって教育とは何ですか」と聞いたら、「それは決して人から盗まれることのない財産です」と答えた。皆さん方は正に教え子に財産を与えていることになる。これからやがて生きてくる。生きる力になってくる。教育はそういうものなのだと改めて知った。

・私は子どもの頃から本を読むのが好きで、大学生の頃片っ端から岩波文庫を読みあさった。ショーペンハウエルの『読書について』にびっくりすることが書いてあった。「読書は他人にもものを考えてもらうことである。本を読む我々は他人の考えた過程を、反復的にたどるにすぎない。習字の練習をする生徒が、先生の鉛筆書きの線をペンでたどるようなものである。だから読書の際にはものを考える苦労はほとんどない。自分で思索する仕事を止めて読書に移る時、ほっとした気持ちになるのもそのためである。だが、読書に勤しむ限り、実は我々の頭は他人の思想の運動場に過ぎない」と。本をいくら読んでも、それで自分の力が付くわけではない。だからといって読書が無駄だと言っているわけではない。大事なことは、読んだ後しばらくデジタル機器から離れ、十分でも二十分でもいい、今読み終わった本について改めて自分で反齎する時間を取ることが大事。自分の頭で考えるということは、こういうこと。

・皆さんは子どもたちを教える立場であり、教材研究をして新たな学びをしている。子どもたちに教えることによって、子どもたちが何が分からないかを知る。仕事すること自体が学びになっていく。新たな学びをしてそれで給料がもらえる。こんないい仕事はないだろうと思う。

・ぜひお伝えしたいことは、いくつになっても学び続けることはできるということ。私の父親は、米寿を過ぎてから寝たきりになったが、岩波書店の『広辞苑』第四版が出て、買ってきてくれと言うので買って枕元に置いたら、父親は一ページ一ページ、読み始めた。なんという向学心、好奇心のかたまり。びっくりした。

・人間いくつになっても学び続けることができるんだ。皆さん方はいくらでも学ぼうと

思えば学べる環境にいる。ぜひこれからも学び続けてください。そして単に知識を蓄えるのではなく、その知識を基盤に自分の頭で考える。そういう力をつけ、教え子にも、自分の頭で考えることのできる能力をつけていただきたい。そのための基礎的な知識を伝達していただきたい。

(田中さんは、講演の内容を細かく要約メモしてくれました。話題が多方面に渡り、とても面白いです。テープ起こしをしたものがあれば、是非読んでみたいです。池上さんの著書は、増田さんが書評で多くの本を紹介してくれており、機会があれば実際に池上さんの講演を聴いてみたいです。

エンタリ

1. 体験講座 講師：渡辺規夫さん

〈ノーベル財団と〈〇〇〇基金〉〉 宮地祐司 作

ノーベル賞とノーベル財団のことを通して社会の〈お金の流れ〉について考える授業プラン。30ページあり、問題が7つ、質問が4つあります。渡辺さんを講師に、参加者でワイワイ言いながら楽しみました。

- ・ノーベルとノーベル賞 ・ノーベル賞 ・ノーベルの遺産
- ・ノーベル賞の財源は？ ・資産運用とは ・お金は「働く」ことができる
- ・〈楽ちん基金〉という実験(○親子孫で〈たのしい仮説実験〉講座 ○私たちのめざすこと
○事業を継続するためには ○100分の1ノーベル財団 ○〈楽知ん基金〉という実験)

〈宮地さんの解説より〉

「社会の〈お金の流れ〉について考えられるような授業プランができないものか？」とずーっと考えてきました。でも、具体例として何を扱うかがたいへん難しいです。

ところが、この10月にノーベル生理学医学賞を大隅良興さんが受賞したニュースがあった時に、「社会の〈お金の流れ〉を考えるモデルとして、ノーベル財団のことをとりあげたらいいのかもしれない」とふと、思いました。そこで、ノーベル財団のことを調べてみようと思ったのです。もちろん、それまでノーベル財団のことは何も知りませんでした。

ノーベル財団のことを扱った研究書は見つけることができませんでした。今回の内容は、北尾利夫『知っていそうで知らないノーベル賞の話』(平凡社新書, 2011) 矢野 暢『ノーベル賞』中公新書, 1988)の2冊にすべて典拠しています。

あとがき 明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。(少し遅い挨拶で申し訳ありません。)



1月に入っての大雪で雪かきにも疲れましたが、通勤に時間がかかり、朝4時頃には雪が降っていないかどうか窓の外を確かめる日が続き、これだけで少し神経をすり減らしたような気がします。幸いにも体調は良好ですが。

年が明けたと思ったらあっという間に1月も終わりに。今年目標をしっかりと立てようと思いながら、ずるずるとここまで来てしまいました。みなさんはどのような目標を立てられたでしょうか？

(エンドウ)

★ 今後の予定 ★

2月18日(土)

3月18日(土)

4月22日(土)